カトリック香里教会　**年間第六主日**　2022 年2月 13 日

— エレミヤ 17 章・5-8、　１コリント 15 章・12、16-20、　ルカ６章・17、20-26 —

イエスは彼らと一緒に山から下りて、平らな所にお立ちになった。大勢の弟子とおびただしい民衆が、ユダヤ全土とエルサレムから、また、ティルスやシドンの海岸地方から、〔来ていた。〕さて、イエスは目を上げ弟子たちを見て言われた。「貧しい人々は、幸いである、／神の国はあなたがたのものである。今飢えている人々は、幸いである、／あなたがたは満たされる。今泣いている人々は、幸いである、／あなたがたは笑うようになる。人々に憎まれるとき、また、人の子のために追い出され、ののしられ、汚名を着せられるとき、あなたがたは幸いである。その日には、喜び踊りなさい。天には大きな報いがある。この人々の先祖も、預言者たちに同じことをしたのである。しかし、富んでいるあなたがたは、不幸である、／あなたがたはもう慰めを受けている。今満腹している人々、あなたがたは、不幸である、／あなたがたは飢えるようになる。今笑っている人々は、不幸である、／あなたがたは悲しみ泣くようになる。すべての人にほめられるとき、あなたがたは不幸である。この人々の先祖も、偽預言者たちに同じことをしたのである。」　　-ルカ6章-

何を選ぶべきか

幸いを求めて生きている私たちですが、その真の目的は、魂の救いです。
救いとは、この世限りの幸いではなく「永遠の命」を得ることです。それを与えてくださるのは、創造主である神に他なりません。この神から派遣された預言者エレミヤが私達に語っています。
「祝福されよ、主に信頼する人は」　又　「呪われよ、人間に信頼し、肉なる者を頼みとし、その心が主を離れ去っている人は」　と。

“見えないものは存在しない”　と考えている人がいます。“死んだら無となってすべて終わり、生ある今が全てなのだ”　と。　何を根拠にこのような考えを持つのでしょう？　この世に偶然は存在しないのです。自分がどこから来たのかも理解できないでいる被造物が、全てを知り尽くした者であるかのように、自分の意識を根拠に置くとは！　彼らに対して神の言葉は　“彼は荒れ地の裸の木。恵みの雨を見ることなく、人の住めない不毛の地、炎暑の荒れ野を住まいとする”　と。　こうして、肉なる者を頼みとして富んでいる人々に今日イエスの言葉は“今、満腹している人々、あなた方は不幸である、あなた方は飢えるようになる。　”　です。

信仰者といえども、不幸な時に幸せを求めるのは易しく、富んでいる時に神を求めるのは難しいものです。　恵み溢れる人は、貧しいときも富んでいる時も、神を求める事を知っていますが、そうでない人は、自分の欲望を満たす事でしか生きる価値を認められません。かつての下剋上がまかり通る戦国の時代にあって、右近と秀吉の一大事件はまさにそれでした。天下人、関白秀吉の脅迫にも怯まず、デウス(神)に従うために、殉教の道を選んですべてを捨てて行った高山右近の潔癖さは、400 年後の私達を襲った一大事件のウイルス禍にあって、私たちが選んでいるのは何か　「いのち」　か　「経済」　か　「それとも？」　。私たちは「山上の垂訓」の主とともに問いかけられているのを感じます。　　　2022 年２月 13 日　主任司祭　　昌川 信雄